













栗原市立大目小学校閉校記念誌



ありがとう ~みらいにつなぐ栗原市閉校記念誌~

2013.03

	あいさつ								
	大目小学校の閉校に寄せて	栗原市長	佐藤 勇	1					
	大目小学校の閉校に寄せて	栗原市教育委員会 教育長	亀井 芳光	2					
	137年の歴史を閉じるにあたって	栗原市立大目小学校 校長	松尾 隆治	3					
	大目小学校閉校に寄せて	栗原市立大目小学校 P T A会長	菅原 正人	4					
	大目小学校の沿革			5～6					
	校歌			7					
	校章・児童会の歌・児童数の推移・校旗			8					
	学校の概要			9～10					
	歴代校長			11					
	歴代P T A会長			12					
	寄稿文								
	～歴代校長～	大目小学校の思い出	第31代校長 佐藤 善司	13					
		2年間でしたが	第32代校長 大場 勝	13					
		羽ばたけ！大目の子らよ	第33代校長 鈴木 靖子	14					
		差し出された手	第34代校長 佐藤 隆行	15					
		想いは伝えなくては・・・	第35代校長 加納純一郎	16					
	～歴代P T A会長～	回想	第5代P T A会長 佐藤 満	17					
		追想	第6代P T A会長 千葉 喜一	17					
		大目小学校閉校に想う	第7代P T A会長 佐藤 清人	17					
		閉校の寂しさ偲んで	第8代P T A会長 高橋 賢吾	18					
		閉校137年間、一部の思い出	第9代P T A会長 三浦 吉郎	18					
		思い出	第11代P T A会長 加藤 建夫	19					
		なつかしの親子三代リレー	第12代P T A会長 菅原 四郎	19					
		地域の大目学校	第14代P T A会長 千田庄一郎	19					
		思い出の大目小	第17代P T A会長 高橋 洋一	20					
		絆	第18代P T A会長 瀬戸 明寛	20					
		大目小学校の思い出	第19代P T A会長 高橋 和憲	20					
		大目小学校への思い	第20代P T A会長 高橋 賢浩	21					
		残念！	第21代P T A会長 佐藤 仁一	21					
		大目弾正太鼓を郷土芸能に	第22代P T A会長 高橋 徳宏	21					
		さよなら、そして、ありがとう。	第23代P T A会長 菅野 雅秀	22					
		いけなかった東京	第24代P T A会長 小野寺克己	22					
			事務 佐藤 大夢	23					
		大目小学校の子ども達へ	養護教諭 菅原 恵	23					
		大目小学校 ありがとう	職員 鹿野由美子	23					
		ありがとう 大目小学校	職員 若生千枝子	24					
		大目小学校閉校にあたり	業務員 花山 光喜	24					
		一つの大きな家族のように	職員 小野寺まち子	24					
		この雰囲気をつつまでも	職員 熱海 宏明	25					
		ありがとう、大目	職員 石川亜由美	25					
		わが第二の故郷・大目	職員 佐々木洋一	25					
		大目小学校での1年間	職員 千葉美智子	26					
		大目小学校ありがとう	教頭 曾根原 朗	26					
	～元職員～	えんつこもんつっこさけだ	元職員 伊藤 玲子	27					
		大目は第2の故郷	元職員 加賀谷宏次	27					
		じんわりとくる5年間	元職員 吉田よし子	27					
		思い出すままに	元職員 三浦 和子	28					
		地域の皆様に支えられた4年間	元職員 氏家 伸之	28					
		あれこれと	元職員 諸橋 珠恵	28					
		大目小学校での思い出	元職員 松田 良幸	29					
		学校と地区が共生	元職員 瀬戸のり子	29					
		感謝をこめて	元職員 二階 雅之	29					
	～卒業生～	大目小学校閉校によせて	卒業生 菅原 章夫	30					
		大目小一年生の頃	卒業生 菅原 勇喜	30					
	～子ども達～			31～36					
		1年生 31	2年生 32	3年生 33	4年生 34	5年生 35	6年生 36		
	思い出のアルバム								37
	編集後記								
		栗原市立大目小学校 閉校記念誌編集部会 部長 高橋 清美							38



大目小学校の閉校に寄せて

栗原市長 佐藤 勇

西に秀峰栗駒山を仰ぎ、そこを源とする幾多の支流からなる迫川が地区の北部を流れ、南には日本最大級の渡り鳥の越冬地である伊豆沼をかかえる自然豊かな地域で、子どもたちに多くの学びを与えてきた大目小学校が閉校するにあたり一言ごあいさつ申し上げます。

明治9年に佐藤久四郎氏宅で授業を開始して以来、137年という長き歴史をもつ大目小学校は、地域住民の方々の学校教育に対する御理解、御協力のもと皆様に温かく見守られ、健全な児童育成の伝統を築き上げてこられました。

恵まれた教育環境の中、学校及びPTAまた児童個人にわたり幅広い分野において多くの優良受賞をされておりますことは、地域皆様の長年にわたる御支援の賜であり、厚く御礼申し上げます。また、歴代の校長先生をはじめ、教職員、関係者の皆様の並々ならぬ御尽力に対し、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、小学校の合併や法改正による改称などを重ねながらも、健全な子どもたちの育成やPTA活動が活発に行われてきたのが大目小学校であります。

特に、自ら学び、自ら考える教育活動を通して、夢や志をもち、その実現に向けて努力する心身ともにたくましい児童の育成を図ることを教育の目標とされ、全職員が全児童の学習活動に関わり、異学年の合同授業や一部教科担任制を取り入れるなど、児童一人ひとりに確かな学力が身に付くよう創意工夫されてこられました。

また、大目地区において小学校は、学区内唯一の公共施設であると同時に、地域住民のコミュニティの場としての存在が大きく、学校に対して地域を挙げて協力する姿は、市内小学校の中でも、良き模範として挙げられるものであります。

さらには、学校を会場とした生涯学習会「サタデースクール」への関心が高く、学校行事とタイアップした活動などが展開されるなど、学社融合が形成されてきたところであり、大目弾正太鼓などの郷土芸能の継承においても積極的に行われているところであります。

このような活動が認められ、様々な分野において表彰や宮城県知事賞などを受賞するなど、長年の取り組みが認められ、地域と学校が一体となった教育が子どもたちを健やかに育ててきたものと感じております。

このように歴史と伝統ある大目小学校が、今日の社会的な問題である少子・高齢化の傾向による児童の減少などの背景から、栗原市においても学校の再編が避けられず、本年3月31日をもって校史を閉じることとなりましたことは、非常に残念でなりません。これまで大目小学校を単立った皆様にとって、母校の閉校は何事にも耐え難い寂しさであり、また、地域の皆様の愛惜の念も深いものがあると拝察いたします。しかし、ここで歴史が終わるのではなく、これからは次代へ大目の歴史と伝統が受け継がれていくようお願いするものであります。

今後、「学府くりはら」の実現に向けて、教師と子どもたちがしっかりと向き合い、学校生活に満足感や達成感がこれまで以上に得られる教育環境づくりを目指すとともに、大目小学校が育んだ歴史が長く受け継がれ、新しい地域の歴史が築かれていくことを心から御祈念申し上げ、閉校記念誌発刊のあいさつといたします。





大目小学校の閉校に寄せて

栗原市教育委員会
教育長 亀井 芳光

平成25年4月、大目小学校は若柳小学校・有賀小学校・大岡小学校・畑岡小学校と再編し、新生「若柳小学校」として現在の若柳小学校校舎のもとでスタートすることになりました。再編にあたり、ご理解とご協力をいただきました大目地区の皆様にご心より感謝申し上げます。

また、若柳地区の小学校再編を進めるにあたり、教育委員会で提案する再編計画に震災のさなかではありましたが、5小学校の保護者会会長と一緒に教育委員会にお出でいただき、当初の計画では旧町村域をまたぐ再編も提案いたしましたが、若柳地区においては5校全てが一緒になるとのご判断をいただき、地域の皆様にも、この保護者の判断を最大限尊重いただきましたことに改めまして感謝申し上げます。

さて、大目小学校は戦後のコア・カリキュラム研究（明石プラン）の下地を作ったとされる及川平治先生が教鞭をとったことでも知られています。及川平治先生は、目前の子どもや社会の変化に応じて、適切と判断する研究法を教師自身が身に付けるために、教師自身が修養し、研究と経験を積み発達することで教師集団の力量を向上させ、結果的に子どもの能力向上につながり、理想の社会を形成すると主張しました。及川平治先生の教育の基礎は、この大目の地で経験的に身に付けた知識と学校教育等によって得た知識との融合から編み出されていったものと伝えられています。

また、大目小学校は地域住民の融和と連帯感を強めるためのコミュニティの場としての存在も大きく、地域の皆様は、教育に対する期待と関心も高く、「大目学校」と愛着をもって呼び、地域を挙げて学校へ協力をいただいております。学校を会場とした生涯学習会「サタデイスクール」にも積極的に参加し、学校行事とタイアップした活動や発表会がもたれています。また、平成22年からは大目小学校閉校後の地域としての絆を深めるため、「大目夏祭り」を大目小学校PTAと地域の皆様が連携して企画・実践するなど、学社融合が自然に出来ています。

しかしながら、少子化による児童生徒数の著しい減少や急激に変化する時代に生きる子どもたちの将来を考えると、学校再編は避けて通ることはできません。再編するにあたり、これまで地域と共に歩み続けてきた学校や慣れ親しんできた校舎と別れることは、地域の皆様にとっては、寂しさや愛惜の念を禁じ得ないことと思います。

再編後は、子どもたちも地区の皆様もこれまで脈々と受け継がれてきた大目小学校の輝かしい歴史と伝統を受け継ぎ、新しい出会いを喜び、共に学び、励ましあいながら、新しい伝統を築き上げ、「地域とともに歩む 新しい学校」の創造に向けて取り組んでいってくださることを信じてやみません。その実現のためには、地域・家庭・学校・教育委員会はじめ関係機関との連携が大切であります。新たに仲間となる若柳小学校・有賀小学校・大岡小学校・畑岡小学校の子どもたち、保護者、地域の皆様との交流を深め、「再編してよかった」と語り継がれる新しい学校を創り上げていただきたいと願っております。

結びに、閉校にあたり、これまで永きにわたり大目小学校を温かく見守り、支えていただきました地域の皆様にご心より敬意と感謝を申し上げます。閉校記念誌に寄せる言葉といたします。

137年の歴史を閉じるにあたって

栗原市立大目小学校

校長 松尾 隆治

明治9年、個人の家屋を借りて始まった大目の学校教育は明治20年に校舎が建築され、2年後に若柳高等尋常小学校の分教場となり、その3年後に大目尋常小学校として独立します。この時期、明治23年には後に大正新教育運動の代表的人物と言われ、日本の教育に大きな影響を与えた及川平治先生が授業雇・准訓導として3年間大目の子どもたちを教えています。

明治・大正の時代を経て、昭和16年に大目国民学校が、そして、戦後の昭和22年に若柳町立大目小学校、平成17年に栗原市立大目小学校となり現在に至っています。卒業台帳の記録によれば、尋常小学校で1255人、国民学校で196人、大目小学校で1175人、合計2626人がこの学校を卒業したことになります。

137年の歴史の中で2626人の子どもたちが学び育った学校。地域の人々にとって大目小学校は社会や人と関わる最初の6年間を過ごした思い出の場所であり、さらに、親の立場となって再び何度も集った特別で大切な場所であったはずで

す。地域の人々が大目小学校を大切に思う思いは今日まで脈々と受け継がれています。私が赴任してまもなく「私たち地域の人間は大目小学校を誇りと愛着を持って大目学校と呼びます。そこに来る先生方は地域に新しい風・文化をもたらしてくれるので大歓迎です。」という言葉をいただきました。運動会を始め多くの行事が保護者の協力で準備されますが、そのためのPTA役員会はほとんど父親が出席します。子どもを大切に思う地域は学校も大切にすることに改めて気づかされます。

さて、再編統合により大目小学校は閉校となりますが、子どもたちにはより大きな集団の中で自分を磨き、友を増やしてほしいと願っています。また、地域・保護者の皆様には新設校においてもご支援・ご協力をお願い申し上げますと共に、地域としての子どもの安全と健全育成はこれまで同様に見ていただきますことをお願いいたします。

明治の及川平治先生を始め、のべ数百人の教職員が本校に勤務しご支援を賜りました。厚く御礼を申し上げますと共に、皆様のご健康・ご多幸をお祈り申し上げ、閉校にあたっての挨拶といたします。



明治42年9月 落成記念



旧校舎航空写真

大目小学校閉校に寄せて

栗原市立大目小学校

PTA会長 菅原 正人

私の母校であります大目小学校の閉校にあたり、PTAを代表いたしまして一言ご挨拶申し上げます。

我が大目小学校が、明治9年に開校して以来、たくさん子どもたちが、学び巣立っていきました。少人数の学校でありましたが、その学校とも別れの時が来てしまいました。とても淋しい気持ちでいっぱいです。

私が学んだ時代は、まだ古い木造校舎で体育館もない学校でした。今の校舎は平成7年に建てられ、まだ17年しか経っていない新しいものです。その校舎から子どもたちの元気な姿や声が消えてしまうことは、とても淋しく感慨深いものがあります。

私は、縁あって、2年間PTA会長を務めさせていただきました。再編や閉校を前に、閉校記念事業実行委員会を立ち上げ、様々な意見交換をしながら準備を進めてまいりました。皆さんの理解を得られたのか不安な気持ちもありますが、私なりに頑張ってきたつもりです。大目小学校の閉校により、137年という長い歴史に幕を降ろすことになり万感の思いです。

栗原市の学校再編計画によれば、若柳地区の5校が閉校し、新しく1つの学校として平成25年度からスタートします。児童生徒の減少により、再編しなければならないという現実を、受け止めなければならないと痛感しております。この再編に対して、地域の皆様にもご理解いただき、新しい学校がスタートすることになりました。未来ある子どもたちが、新しい学校で、勉強に、運動に、遊びに、一生懸命頑張るって欲しいと思います。そして、限りなく成長することを願っています。

最後に、PTAの皆様、大目小学校に携わっていただいた多くの皆様に御礼を申し上げます。

今後とも、地域の子どもたちに温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます、閉校にあたっての私のあいさつといたします。



旧校舎航空写真（昭和53年）



旧校舎航空写真（平成6年）



年(元号)	西暦	児童数	歴代校長名	概要
明治 9	1876			大目川端 佐藤久四郎宅で授業開始
20	1887	60	近藤 親民	川南上大目 9 7 番地に新校舎新築
22	1889		〃	町制実施により若柳高等尋常小学校大目分教場となる
25	1892			郡告示第 8 号により大目尋常小学校、独立校となる
31	1898	208	木村 宗	中島谷地において運動会
32	1899	164	今野 信哉	畑岡小と連合して中島谷地にて運動会
33	1900	150	鈴木清三郎	特に子守児童に対して補習授業開始
37	1904	140	千葉敬治郎	東校舎火災のため消失
大正 2	1913		末長 左右	
5	1916		久我 清助	
7	1918		早坂 賢治	校歌制定 (わが東北……)
10	1921	228	〃	校旗披露式
昭和 2	1927		庄子 吉治	西校舎屋根ふき替
8	1933	186	佐々木信平	5・6 年松島修学旅行実施
11	1936	192	菅原忠三郎	校庭土盛 (5 日間奉仕作業)
14	1939		芳賀 栄松	隣家から出火、御真影を奉環所に奉環
16	1941		岸 慶信	大目国民学校と改称
20	1945		安斉 猛	終戦 文化的平和教育に方針改正
22	1947		小野寺政之	若柳町立大目小学校と改称
28	1953	173	藤巻 省吾	新校舎に移転
29	1954	172	角田 赳夫	新校舎平屋の屋根替
33	1958	203	小泉 本治	牛乳給食開始
34	1959	203	〃	文部省指定社会学級公開研究会
35	1960		〃	青梅子ども貯蓄組合 (知事より表彰)
36	1961	196	〃	全教科研究公開
39	1964		伊藤敬二郎	いなご代金でスベリ台 1 基、大目小鼓笛隊編成
42	1967	143	渡辺 敏夫	簡易ビニールプール完成
43	1968	123	〃	養護婦配置 栗教協主催図工公開
44	1969	109	〃	町内完全給食実施・全日本健康優良校として表彰
45	1970	99	大内 康夫	
47	1972	74	伊藤 順吉	カラーテレビ備付
48	1973	63	〃	学校給食優良校として県教委より表彰
50	1975	63	佐藤 訓雄	西校舎竣工
51	1976	62	〃	開校百年記念式典
54	1979	65	和田 功	屋体新築・自転車置場完了・校章屋体設置
55	1980	63	〃	「う歯予防推進校」公開研究会
56	1981	63	阿部 静雄	「う歯予防」県医師会より表彰
58	1983	74	後藤 虎郎	よい歯の学校として表彰
60	1985	77	安部 研一	
61	1986	81	〃	体育用一輪車設置
62	1987	83	佐々木匡義	北側道路改修・駐車場設置
平成元	1989	81	〃	学校歯科保健管理優良校として表彰・学校奨励賞 (作文部門)
2	1990	84	〃	パソコン設置・校旗更新・鼓笛隊用ユニフォーム
3	1991	86	佐々木進也	体育用具プレハブ倉庫設置・放送室・購買室 改築工事
4	1992	85	〃	青少年赤十字に加盟登録
5	1993	88	〃	学校花壇コンクール入選・ボランティア活動普及事業協力校指定
6	1994	79	岩渕 敬一	学校建設用土盛り安全祈願式典
7	1995	80	〃	大目小学校新築記念式典 (学校)・体育館落成





年(元号)	西暦	児童数	歴代校長名	概要
平成 8	1996	69	岩渕 敬一	プール落成・遊具設置、大目小学校落成式、和太鼓購入(記念事業より寄贈)
9	1997	63	佐藤 善司	校庭整地・校舎周辺植樹・バックネット設置
10	1998	56	〃	宮城県健康教育推進学校表彰・プール監視用テント設置・遊具設置 大目弾正太鼓ののぼり寄贈
11	1999	49	大場 勝	コンピュータの設置・校庭整備(暗渠排水工事)
12	2000	43	〃	及川平治顕彰碑建立
13	2001	40	鈴木 靖子	職員室にエアコン設置・校内LAN機器設定修理・3・4年複式学級
14	2002	34	〃	学校週5日制完全実施・ごみ置場設置・3・4年複式学級 健康な口腔と良い歯の学校表彰10年連続表彰
15	2003	30	〃	校庭南側法面補修 交通安全教育普及の功績として県警本部長より感謝状 緑化推進補助事業によりドウダン・サツキを植栽・3・4年複式学級・5・6年複式学級
16	2004	30	佐藤 隆行	プールサイド全面塗装、パソコン入替・校内・教室LAN接続、3・4年複式学級、5・6年複式学級
17	2005	29	〃	町村合併により栗原市立大目小学校と改称、特別支援学級新設 3・4年複式学級、5・6年複式学級
18	2006	32	〃	栗原市幼小中学校2学期制実施、3・4年複式学級、5・6年複式学級 学校安全優良校表彰、よい歯の学校表彰
19	2007	30	加納純一郎	1・2年複式学級、5・6年複式学級
20	2008	34	〃	3・4年複式学級、よい歯の学校表彰 6月14日「岩手・宮城内陸地震」発生、16日臨時休業
21	2009	35	〃	3・4年複式学級 5・6年複式学級、よい歯の学校表彰 児童用・教師用コンピュータ入替、校内・教室LAN接続、地デジ対応テレビ設置
22	2010	34	〃	3・4年複式学級、5・6年複式学級、よい歯の学校表彰 8月8日「大目夏祭り」、「ホームカミングデー」を開催 11月 5日国語科授業研究会を開催(辞書引き学習講演会) 2月25日～「及川平治展」・「卒業記念写真展」を開催 3月11日東日本大震災発生、マグニチュード9.0、震度7 3月14日～23日臨時休業、3月24日卒業式・修了式
23	2011	31	松尾 隆治	4月 7日震度6強の余震発生 4月8日～13日臨時休業 5・6年複式学級 4月14日着任式・始業式、4月15日入学式、災害復旧工事:上下水道、駐車場等 福島原発事故のため、修学旅行先を会津若松方面から盛岡方面に変更
24	2012	32	〃	2・3年複式学級、5・6年複式学級、2月閉校式



大目小学校 校歌

作詞 白鳥 省吾
作曲 岩城 実

こころをそよろえ てべんきよりしめ
おこめをのそいたー りめ てやうくにのうた
おやに がとん うかは のくの のほ とり
まほ まは た のし のウツ は クヒ とし
かお がや き た て ら な な び や に
こ こ ろ を み が き み を お さ め

(Arranged by T. Sakurai: Oct. 1999)



大目小学校 校歌

作詞 白鳥 省吾
作曲 岩城 実

一 わが東北の 野のほとり

輝きたてる 学び舎に
心をそるえて勉強し
みんなでりっぱに
なりましょう

二 山と川との 美しい

大目の里の 朝夕に
力を入れて運動し
みんなで丈夫に
なりましょう

三 日本は楽し 世は広し

こころをみがき 身をおさめ
大目のためや国のため
役立つ人と
なりましょう



校章・児童会の歌



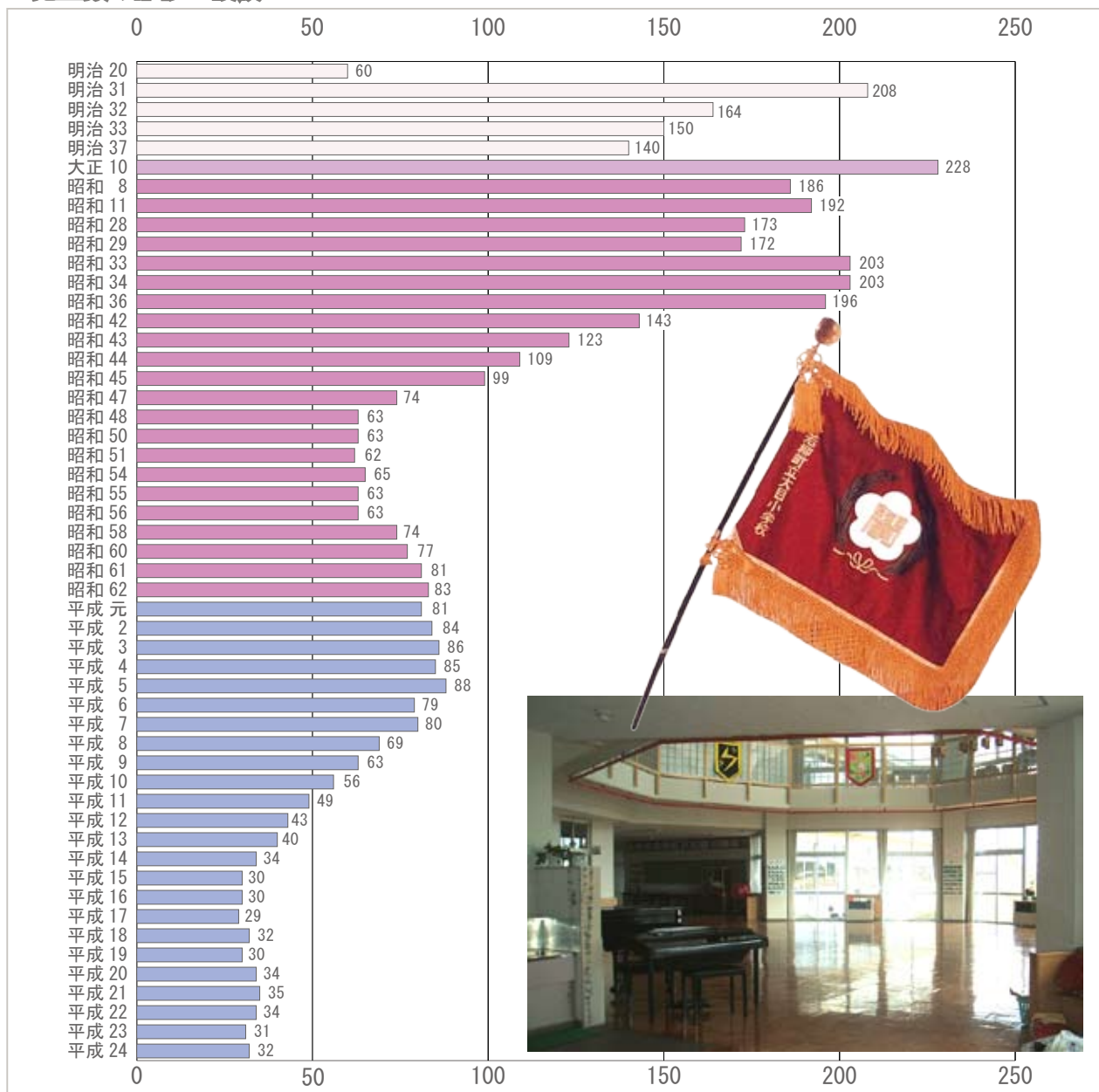
児童会の歌

一 空気のおいしい 空がある
太陽かがやく 校庭で
ぐんぐん走れ 大目の子
元気に元気に ランランランラン

二 緑のすずかけ いつまでも
大きなはっぱを 広げてる
ぐんぐん伸びよう 大目の子
元気に元気に ランランランラン

三 たんぼの いなほがキラキラと
校舎のまどに うつつてる
ぐんぐん育とう 大目の子
元気に元気に ランランランラン

児童数の推移・校旗



学区について

大目小学校学区は栗原市の東部に位置し、迫川と国道398号線沿いの戸数169戸（H24年3月現在）からなる集落である。また、近くにはラムサール条約に登録された国際的保護湿地「伊豆沼、内沼」があり、冬には白鳥やガン等多数の渡り鳥が飛来する自然豊かな地域でもある。



1600年代、皿沼谷地と称される湿地帯が干拓され、現在は一面の田園地帯となり、稲作と畜産を主とした農業が盛んである。特に、飼育されている牛は、「若柳牛」の名で珍重されている。

家庭関係では三世同居の家庭が多く、子どもたちは愛情豊かに育てられている。また、兼業農家が主流で安定した収入を得て生活を営んでいる。

学校は学区内唯一の公共機関であると同時に、地域住民の一層の融和と連帯感を強めるためのコミュニティの場としての存在が大きい。

現在の大目小学校は、平成6年6月より地域開放型の学校として建築が開始され、平成7年3月に落成した。翌平成8年にはプールが完成、続いて平成9年には校庭が整備され現在の姿が整った。

地域住民は教育に対する期待と関心が高く、「大目学校」と愛着をもって呼び、地域あげて学校へ協力する姿が見られる。学校を会場とした生涯学習会「サタデスクール」への関心も高く、積極的に参加し、学校行事とタイアップした活動や発表会がもたれる。また、一昨年から、地域としての絆を深めるため、「大目夏祭り」を大目小学校PTAとコミュニティが連携して企画・開催するなど、学社融合が自然にできている。

平成25年度には、旧若柳町の5つの小学校が一つに再編されることになる。そのため、平成24年度は、3月の閉校に向け、PTAとコミュニティが連携して、各種の記念事業を行う予定である。



学区略図



北緯 38° 44' 36"
東経 141° 08' 53"
海拔 8.5 m

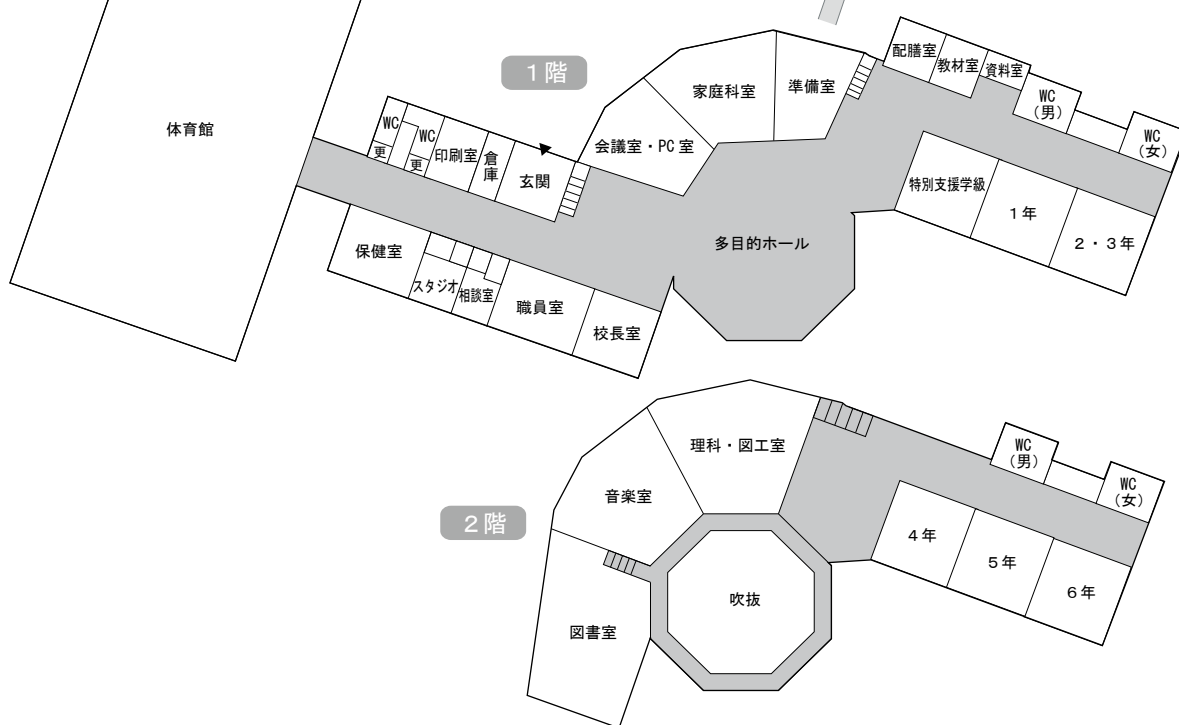


校舎のようす

学校平面図



校舎配置図





初代	明治20年度～明治23年度	近藤親民	校長
第2代	明治31年5月～明治31年10月	木村宗	校長
第3代	明治31年11月～明治32年度	今野信哉	校長
第4代	明治33年度～明治36年度	鈴木清三郎	校長
第5代	明治37年度～大正元年度	千葉敬治郎	校長
第6代	大正2年度～大正4年度	末長左右	校長
第7代	大正5年度～大正6年度	久我清助	校長
第8代	大正7年度～昭和元年度	早坂賢治	校長
第9代	昭和2年度～昭和7年度	庄子吉治	校長
第10代	昭和8年度～昭和10年度	佐々木信平	校長
第11代	昭和11年度～昭和13年度	菅原忠三郎	校長
第12代	昭和14年度～昭和15年度	芳賀栄松	校長
第13代	昭和16年度～昭和19年度	岸慶信	校長

第14代	昭和20年度～昭和21年度	安斉猛	校長
第15代	昭和22年度～昭和27年度	小野寺政之	校長
第16代	昭和28年度	藤巻省吾	校長
第17代	昭和29年度～昭和32年度	角田赳夫	校長
第18代	昭和33年度～昭和38年度	小泉本治	校長
第19代	昭和39年度～昭和41年度	伊藤敬二郎	校長
第20代	昭和42年度～昭和44年度	渡辺敏夫	校長
第21代	昭和45年度～昭和46年度	大内康夫	校長
第22代	昭和47年度～昭和49年度	伊藤順吉	校長
第23代	昭和50年度～昭和53年度	佐藤訓雄	校長
第24代	昭和54年度～昭和55年度	和田功	校長

第25代	昭和56年度～昭和57年度	阿部静雄	校長
第26代	昭和58年度～昭和59年度	後藤虎郎	校長
第27代	昭和60年度～昭和61年度	安部研一	校長
第28代	昭和62年度～平成2年度	佐々木匡義	校長
第29代	平成3年度～平成5年度	佐々木進也	校長
第30代	平成6年度～平成8年度	岩淵敬一	校長
第31代	平成9年度～平成10年度	佐藤善司	校長
第32代	平成11年度～平成12年度	大場勝	校長
第33代	平成13年度～平成15年度	鈴木靖子	校長
第34代	平成16年度～平成18年度	佐藤隆行	校長
第35代	平成19年度～平成22年度	加納純一郎	校長
第36代	平成23年度～平成24年度	松尾隆治	校長





初代	藤原 長一	会長
第2代	小野寺浩平	会長
第3代	菅原 四郎	会長
第4代	菅原 幹雄	会長
第5代	佐藤 満	会長
第6代	千葉 喜一	会長
第7代	佐藤 清人	会長
第8代	高橋 賢吾	会長
第9代	三浦 吉郎	会長
第10代	佐藤 昭吉	会長
第11代	加藤 建夫	会長
第12代	菅原 四郎	会長
第13代	菅原 信一	会長
第14代	千田庄一郎	会長
第15代	小林 茂樹	会長
第16代	菅原清之助	会長
第17代	高橋 洋一	会長
第18代	瀬戸 明寛	会長
第19代	高橋 和憲	会長
第20代	高橋 賢浩	会長
第21代	佐藤 仁一	会長
第22代	高橋 徳宏	会長
第23代	菅野 雅秀	会長
第24代	小野寺克己	会長
第25代	佐藤 克明	会長
第26代	菅原 正人	会長



大目小学校の思い出

第31代校長 佐藤 善司

私が勤務したのは、平成9年・10年度の2年間です。初めて校長室に入った時、歴代の校長先生方のお写真を拝見し懐かしく感じました。初任地の志波姫小学校で御指導頂いた伊藤順吉先生、若柳小学校でお世話頂いた伊藤敬二郎先生、志波姫中学校で御一緒した岩渕敬一先生、そして体育研究会でお世話になった安部研一先生、佐々木匡義先生の諸先生方です。

私が赴任した時、校庭は未整地であり、植木、花壇等もまだでした。校庭に周回のラインを引き、朝児童と職員が音楽に合わせて持久走をしたこと。校舎の前に100mの直線コースが取れず、焼却炉の脇からプールの側まで斜めにコースを作ったこと。プールの側には溝があり危険なので町当局にお願いしてコンクリートの側溝を埋めてもらったこと等懐かしく思い出されます。元気に遊び、陸上に野球の練習に励んだ子ども達。小学校陸上競技大会、少年野球で活躍した子ども達の笑顔はすばらしかったです。

校庭の整備が進み、花壇が校舎前に造られ、植栽がなされ、プールにはテントが設営され学校らしくなりました。観察園を兼ねた学級花壇を造ろうと考え、PTAの方々に相談申しあげたところ、早速手配をして頂きました。周囲の煉瓦や花壇の土は地域の皆様からの無償提供を頂き、先生方や児童と作業し学級花壇が完成しました。

高橋ゆうこ先生の御指導で始まった大目弾正太鼓。保護者を中心に親の会を作り、幟や服装を整え、敬老の日にはアトラクションとして出演しました。演技を終えた子ども達の喜びの笑顔は今でも思い出します。

大目サタデースクールでは講師として全職員が参加し、地域の方々と学校の繋がりを深める場でした。スクールの閉講式後の懇親会は地域の方々と親しく交流が出来る場でした。また夏休みの地区の展示会の作品は一級品揃いで、その中に児童の作品も展示させて頂いたことも忘れられない思い出です。

地域の方々に親しまれ、育まれてきた大目小学校が閉校するという事は大変寂しく残念ですが、私にとって大目小学校の生活は児童、地域の方々と先生方に恵まれた2年間でした。感謝、感謝です。

2年間でしたが

第32代校長 大場 勝

平成11年4月赴任。初めての小学校勤務だった。まとまりのある地域の中の学校で協力体制もよく、楽しい学校だった。それに乗じて、町からは材料費をいただき、PTAにお願いして校庭の暗渠事業をやっていただいた。機材を持ち寄りてきばきと作業をこなしていく若者たちは、大目地区そのものの姿だった。今でも感謝の念が絶えない。

及川平治顕彰碑建立の話が持ち上がり、多くの先輩方に接する機会を得た。恥ずかしい話だが、それまで平治のことは殆ど知らなかった。聞いたり調べたりしていくうちに、彼の教育論は普遍的なものであることが分かり、その偉大さに感服するばかりだった。ドリームパルと校地の一角に建てられた顕彰碑は、教育界にとっては永遠の記念碑と言える。

遺産を大切にするという意味では、松の古木の移植も思い出される。開校当初に植樹されたと言われている旧校地の松の樹だ。地下水が高く、あまり幹回りは大きくないが100年有余の歴史を持っているに違いない。大先輩方が、よく登って遊んだということだ。これも地域の方々の力を借り無事移植することができた。学校は無くなっても、歴史は生き続ける証人になってくれると信じている。子どもたちは、屈託のない素直な子供がほとんどだ。少人数なので学年の垣根を越えて交流しているし、先生方の目もよく行き届いていた。会津若松への修学旅行では、貸切バスでは割高になるので、新幹線、タクシーを利用したの旅行となった。初めてのケースである。時間的に余裕も生まれて予定しないコースまで体験できたことに子どもたちはとても喜んでいた。

土曜学校も忘れられない一つになっている。学社連携のお手本だった。国際交流体験でガーナの人に参加してもらった時、初めて間近に見る黒人が珍しかったと思われ、「化粧するんですか。」「どうして化粧しないんですか。」と聞く参加者がいた。思わず失笑してしまった。

2年間、温かく見守り協力していただいた地域の方々、頑張っていた子供たち、協力していただいた先生方、皆様に感謝の限りです。

羽ばたけ！大目の子らよ

第33代校長 鈴木 靖子

白鳥が羽を広げて飛び立つ姿をイメージして建てられた、というさわやかな色合いのかわいらしい大目小学校に赴任したのは平成13年4月。

赴任日、玄関で迎えてくださったPTAの役員さんは30年前の若柳中学校の教え子達。「二十四の瞳だあ！」と感激。以来在任期間ずっと後押ししていただきました。感謝！！

移転、新築間もない校舎は気持ちが良いだけでなく、多機能が整備され使い心地の良い学び場でした。もちろん小規模校ゆえの悩みはいろいろありましたが、全職員の知恵と努力でプラスに変えていきました。

しかしながら、年々児童数が減り複式学級ができた時は教室や担任の配置、指導法、指導案の書き方等に苦慮したことを思い出します。全職員、必死になって研修しましたね。

ところで、小規模校には大規模校以上の教育効果が期待できる学習環境がたくさんあります。

どの子にも目が行き届く少人数指導。どの場面でも主役の存在感。それから学年を越えた学び合い。そして、地域の方々との深いつながり。

そうです。子ども達の「学び」に力を添えてくれるのが家庭と地域の「教育力」です。今でも続いているのでしょうか「サタデスクール」。

生涯学ぼうとする多芸多才、且つ意欲的な人々の存在に、地域の底力と一体感を常に感じさせられていました。この地域力こそが学校と子どもを支える重要な力だったのですね。

学校を飛び出しての校外学習でも地域の方々のお世話になりました。(私はその時学んだ「豆腐作り」を時々やっています。失敗しながら ^ _ ^ ;)

今振り返ってみると朝マラソンから始まって休み時間のおしゃべり、業間時間の縄跳びやドッジボール、鬼ごっこ等など遊んだことばかり思い出されます。校長先生とは“子どもと遊ぶ役目の先生”と思われていたかもね。そうそう、学校前の菅原さんちの柿の木に登って柿もぎもしました。1年生と干し柿を作ったっけ。はて、食べたっかしら・・・。

花と緑に囲まれた自然豊かな環境と「及川平治の教育論」に導かれながら諸先輩が築いてこられた盤石な教育現場で、充実した教職生活を締めくくることができた幸せを今、改めてかみしめています。

閉校しても大目小という心の学び舎は永遠です。

羽ばたく大目の子らに幸せを！！



差し出された手

第34代校長 佐藤 隆行

大目小学校が閉校になることは知っていたが、その時になるとやはり寂しいものだ。私の教員生活38年間の最後を過ごした小学校であり、思い入れも強い。

幸いなことに、私はどこの学校に行っても、周囲の人々に恵まれてきた。とても感謝している。特に大目小学校もその一つである。

大目小は栗原で一番小さい学校であったが、3年目の年には大目小より児童の数が少ない学校ができ、最小でなくなったことに驚いたものだ。学校は小さくとも、とても贅沢な学校である。児童数32名に対し、教職員13名全員で指導ができたと思っている。良い教職員が揃っていたことも、余計に残る理由である。それに子どもたちは、素直で、純朴であり、優しく、可愛い子どもたちばかりであった。退職しても思い出すのは、やはり子どもたちのことだ。校庭にほとんど全員と思われるくらいの児童が学年関係なく遊んでおり、上の子は下の子の面倒を見るし、下の子は上の子に甘えている。みんな楽しそうな表情で、和やかだ。ほほえましい光景である。

また、栗原市の学校行事である音楽祭に大目小も参加した時のことだ。他所の学校は学年か個人、グループ等の参加だが、大目小は全員参加である。全員でも32名だが、合唱には適当な人数だ。合唱の声も揃っていたし、楽しそうに歌って、一つにまとまっていた。その中に自閉症の子どもも一人いた。遅れて入場したその子が、合唱の際、上級生の男の子がそっと手を出して自閉症の子の手を握り、何事も無かったかのように歌い、平然とした態度が観客席からもしっかり見てとれた。自閉症の子どもも、あの場面の雰囲気は感じ取れ、みんなに合わせていた。合唱の声も揃っていたし、楽しそうに歌っていた。みんな物怖じしない大した度胸をしていた。優しさ、温かさ、場に応じた態度がとれる子どもたちであった。大目小の良さを対外的に見せてくれた一場面である。

栗原はずれの地の静かな田園の中にある大目小は、旧校舎もまだ近くにあり、閉校はもったいない気がする。しかし、世の流れで仕方がない。時折、東北線の貨物が通過するが、なぜかあの音が懐かしく、今でも聞こえてくる気がしてならない。



想いは伝えなくては。。。

第35代校長 加納純一郎

一人一人に歴史があるように、その人の育った故郷にある学校にも歴史があります。明治・大正・昭和・平成の時代を故郷とともに見つめ続けてきた大目小学校が、その幕を下ろすことは本当にさみしい限りです。私も、平成19年度から4年間、大目小学校にお世話になって、大目小学校の140年余の一コマに立ち会えたことを本当に幸せだと感じています。ありがとうございました。

おとぎの国のような校舎と33名の全校児童、「地域よし、親よし、子どもよし」の「おらが学校」の大目小学校でした。子どもたちが10年後、20年後、30年後、故郷を想う時に、生き方を探る時に、小学校での6年間が生きる力になってくれればという願いで、いろんな活動に取り組みました。校長室は、孤独でさみしいものです。できるだけ子どもたちと一緒にいたいから、校長室を開放しました。最初の訪問者は、当時4年生の佐藤大樹くんでした。どっかりソファに腰を下ろしたのを覚えています。今日も、子どもたちが校長室にやってきました。本を読む子ども、ミニ卓球をする子ども、トランプをする子ども、コップ積みをする子ども、知恵の輪をする子ども、にぎやかな校長室でした。それでは、最後の訪問者は誰だとおもいますか。平成22年3月31日、当時6年生の佐藤奈美さんでした。ありがたいなあと思いました。

“打てば響く”子どもたちでした。陸上大会、水泳記録会、市の音楽祭、大目弾正太鼓、何でも最後まであきらめない姿が、今でも思い浮かびます。「幸福の黄色いハンカチ」も大切な思い出の一つです。2年目の6年生（今の高校1年生）が達成したことや思い出を黄色いハンカチに書き記し、100枚以上の黄色いハンカチを卒業間近に掲揚塔からなびかせた時は、感動しました。秋休みに学校でのお泊まり会をしたことが、昨日のように思い出されます。

最後の年は、「大目夏祭り」です。PTA会長さんを中心に保護者の皆様のご支援により、夏休みに学校を会場にして開催することができました。流しそうめんにバザー、出店、灯籠と花火など、親と子どもたちのパワーとふるさとのよさとありがたさを感じた一日でした。

大目小学校の歴史が語り続けられることを切に願っています。



夏祭り（平成22年）



夏祭り（平成22年）



夏祭り（平成23年）



夏祭り（平成24年）

回想

第5代PTA会長 佐藤 満

私共が大目小学校に入学したのは、今を去る昭和9年の4月です。当時の社会は満州事変が終わって国内も少し落ち着いて来たのです。

当時の大目小学校は2部教育で先生は校長先生以下4人でした。1・2年、3・4年と同じ教室で学んだものです。児童の数は一組で30名程で全校で、200人程でした。仲良く賑やかでした。昭和12年に支那事変という戦が起きて児童等の父が戦争に行かれ、残った子供達、母さん達でよく家の仕事を手伝ったものです。そして昭和16年頃に、これ又大きい太平洋戦争が始まり子供達まで銃後の守りで喰ふや喰わずやで、戦争に協力したのです。私共の少年時代は毎日が戦争の時代でした。幸いな事に大目小学校は空爆も受けずに残ったのです。昭和20年長い戦争も敗戦という形で終わりました。終戦になったのは、私共が高校の卒業の年でした。本当に少年時代大目校の時代戦争戦争で暮らしたのです。

その後復興の為に頑張って今日まで来たわけです。今の子供達は平和な世の中で伸び伸びと暮らせるのは幸せです。心の拠所として閉校は寂しいです。世の中の移り変りで致し方ないと諦める他はないのですね。


追想

第6代PTA会長 千葉 喜一

私もPTAの会員を卒業して40年、今はすっかり老人になりました。「子どもを叱るな来た道だもの。」「年寄笑うな行く道だもの。」という言葉を目にした事がありますが、今から記す事も意味不明、そこは一つ大目に見てやって下さい。

12年間PTA会員として、4代の校長先生方、そして多くの先生方と接して参りましたが教育の職とは重責のある、そして又遣り甲斐のある仕事だと見させて頂きました。子どもや親達の手本になる事、又当然の事を行っても「だもの」それが少しのミスでもあれば「なのに」

が付く、実に以て言動に緩みのない大変な職です。

私も時折子ども達に会いますが、昔と変わらず、素直で礼儀正しく思いやりのある子ども達です。来春新発足する若柳小学校も大目小学校と周囲の環境も似ており、修学の場として最適の所のようにです。来春の開校時の頃には、迫川辺の桜も満開となり、大いなる期待を込めて子ども達を歓迎してくれる事と思います。

大目小学校閉校に思う

第7代PTA会長 佐藤 清人

「大目小学校閉校」という言葉を耳にする時、此の大目小学校区に生まれ、此の大目小学校と92才になる今日まで関わってきた私の心に、一抹の懐かしさと淋しさが走る。

顧みれば、昭和8年3月大目小学校を卒業し、その後、若柳小学校高等科3年を終えて、20才代には、大目小学校の先生方との交流もあり、学芸会のバック絵を描いて欲しいと度々声がかかった。30、40代は、PTA会員として、又、50代末からは民生委員として15年間、学校のいろいろな行事に招かれ、たくさんの先生方と親しく交流する機会を得た。

92才になった現在も、大目小学校とはまだ縁が切れていない。旧校舎当時、祖父母参観日に昔話の語り手としてお願いされたこともあり、新校舎になってからは、平成11年から毎年、「昔話を聞く」授業に語り手として依頼されてきた。今年で14回目になるが、最後の1回もぜひ語ることができたらと思っている。



閉校の寂しさ偲んで

第8代PTA会長 高橋 賢吾

平成23年3月11日大震災に遭いました方々に深く御見舞を申し上げます。

平成24年度も異常の年か、時代の流れに開校130有余年の歴史の学校、そして2300有余名卒業生をお送り出しました学校が閉校されます。時代の流れと申せ誠に寂しく残念です。

明治5年に国民皆学の学制が制定され、以来大目有志一同、民家を借り寺子屋を始めました。誠に学問に熱心な方々だったと思います。

顧みますと昭和50年11月3日文化の日、開校百年祭を誠に静粛に盛大に挙行致しました。歴代の校長先生、PTA会長始め旧教職員、御来賓多数、同窓生の方々と盛会の内に二百年を目指して終わりました。其の後立派に新校舎が建設され、学区一同喜んで此のさき幸せな大目二百年を目指して居た所です。学舎は勿論の事、明治40年に大水害が有り、40数日の間避難をされた歴史が残って居ます。大目の拠所として現存される事と思つて居ます。優しい校歌にお送られた卒業生も閉校を知つて大変に寂しく思つて居る事とでしょう。来年4月大規模の学校に変わります30余名の児童の皆さん、「大目の里の朝夕に力を入れて運動しみんなで丈夫に」と校歌の一節ですが大きく羽ばたいて下さい。又保護者の皆さん、合わせて学区の皆さんの益々の御発展を御祈念申し上げます。

何とぞお世話様でした。

閉校137年間、一部の思い出

第9代PTA会長 三浦 吉郎

自分が大目小学校に入学したのが、終戦直後の入学でした。衣食に大変な時代でした。教科書等も完全に、手に入らず、借りて教科書を親に写してもらいノートも満足に入手できません。服やクツなども物不足の関係でクジ引きでした。なかなか当たらない、仕方の無い事ですが、大目小学校6年間の思い出が、今だに強く残っています。

若柳中学校に進んで行きましたが、中学校行っても、大目の学校ボロ学校と言われた事が記憶に残っています。その後に自分達の子供二人入学させました。子供の教育には、他の学校と同一条件の中で学んでもらいたい気持ちが強かったと思います。二代目の学校西校舎は危険校舎に指定されていたから、若中解体を大目区の保護者の方々に労力をもらい、解体材を利用し西校舎と二教室を抜いて体育場を作って戴きました。更に開校百周年記念事業並びに現在教育指針及川平治先生のルーツ下調べ、更に屋内体育館建設の件については三人の地権者との話し合い建設後更に若柳小との統合の話し合い等色々の事項有りました。現校舎は三代目の学校。

閉校に成るがさびしいです、残念です。



思い出

第11代PTA会長 加藤 建夫

突然の依頼でびっくりした次第です。

137年間の歴史ある大目小学校が幕を閉じる事は寂しい事です。私は大目小学校を昭和30年3月に卒業しました。毎日の様に学校の前を通ると古希になっても走馬灯の様に色々な事が頭をかすめます。

一番の思い出は運動会です。それは親子三代リレーです。子供親祖父又は祖母、今の親子関係には見られないどの家族も全力投球で走りました。子供も親も和気あいあいでした。家に帰って来てもこの親子三代リレーは話題になり、途切れることはありませんでした。



運動会

又一个の思い出は体育館でお酒を飲んだこと。楽しくて笑いがたえませんでした。現在などはとても学校でお酒を飲むなんて考えられないです。ほんとうに時代の流れで変わりましたね。学校も2回の新築をくり返しながら現在に至っています。今は健康に気をつけて適当に農作業をやっています。どうぞ統合になっても地域はそのままでありませ様に願ってやみません。そして子供達がすこやかに成長する事を願ってやみません。

なつかしの親子三代リレー

第12代PTA会長 菅原 四郎

大目小閉校にあたり、私の子供達がいた当時の学校行事がなつかしく思い出されます。

そのひとつが運動会の親子三代リレーです。亡き父が孫からバトンを受けとり真剣に走り、アンカーの私にバトンを渡し、私も父の孫への思いを無駄にしまいと恥ずかしい思いも多少ありましたが、一生懸命走り一位になった時の父のうれしそうな顔が今も思い浮かびます。

地域の人達が皆一丸となつての声援、拍手、笑い、そして皆で囲む弁当の美味しかったこと。地区毎の仮装行列もあり本当に楽しい一日を家族や地域の人達と過ごした運動会でした。スポ少の野球、剣道も人数が足りず1年からの選手でした。ブカブカの剣道着を着て、大きな選手を相手に一本取った時の親達の喜び・・・。

少人数で大変な事もあったでしょうが、だからこそ得たものも大きかったと今も思います。

大目小はなくなりますが、卒業していった多くの人達の大目小だましいが、かぎりなく続く事を願ってやみません。

運動会（昭和55年）



地域の大目学校

第14代PTA会長 千田庄一郎

長男が入学した55年頃は児童数の減少・危険校舎の指定等の理由で、若小との統合が検討・推進されようとしていました。

確かに児童数は減少傾向でしたが、後継者となるべき若者が結婚し、子供が生まれれば今以上の減少はない。更に学校が無くなれば地域の

崩壊に継がる。と、63年から本格的な改築運動が始まりました。

新しい校舎の視察、町・議会への陳情活動が行われ、移転用地も地権者の皆さんに全面的な協力をいただき、平成7年新設校舎が完成しました。大目小学校は小規模である事を最大限に生かし、地域と共に地域の子供達を育ててきました。

また、大目地区民の心のより拠、活動の場として、「大目学校」として親しまれて来ました。今回再編によって小学校としての役目はおえますが、これからも、「大目学校」として地域の活動の場であり続け、大目地区に子供の楽しげな声が響き続ける事を切に願います。



思い出の大目小

第17代PTA会長 高橋 洋一

児童数減少の中、子供達、保護者、先生方と一体になり地域の方々の協力を得て、運動会、学芸会、田植えなどの学校行事にも積極的に参加していただき盛り上げていただきました。

また大目地区コミュニティでの集まりでは、歌や踊りで体育館が笑いの声であふれ、楽しい一日を過ごした事も今となってはなつかしい思い出です。大目地区四地区に密着したコミュニティ、サタデイスクール。先生をはじめ地域の人達に数多く協力をえ、PTA活動も盛んで、地域との連携も深まり充実した思い出です。



スポーツ少年団（平成3年）

代々歌いつがれた校歌にもありますように、みんなりっぱに、丈夫に心をみがき、身をおさめ、大目や国のため、役立ってほしいと思います。

また教育愛にあふれた校長先生、はじめ、熱意あふれる指導をしてこられた先生方に敬意と感謝を表すものです。

大目小の歴史は閉じますが、輝かしい歴史と伝統を持つ母校を誇り、皆様の一層のご活躍を、望みます。

絆

第18代PTA会長 瀬戸 明寛

私が会長に就任した当時の大目小の校庭は、排水が悪く雨が降ると何日も校庭を使用することができず暗渠排水工事の必要を望んでいました。

そのようなときに、当時若柳町より暗渠排水の工事の資材は提供するので工事はPTAで行ってほしいと打診がありました。早速役員会で快諾され春休み中に工事をすることになりました。

幸いにも会員の中に土木関係の仕事をしている方が多くいましたので、数日で工事を終了することができました。工事中には毎日協力してくれた会員や、時間がとれず数時間でも協力してくれたPTA会員や教師の方々もおり、深く感謝をいたします。

ほんの一例ですがいつの時代でも大目小は、地域の学校として子供と共に歩んできました。少人数の学校だからこそPTA会員と教師の結束力が強く学校に対しての協力は、惜しまず行ってきたと思います。

学校の再編で大目小は閉校となり一抹の寂しさがありますが、これからも、大目地区の絆は続くことを願います。

大目小学校の思い出

第19代PTA会長 高橋 和憲

幾多の変遷を経て今日まで永年にわたり地域のシンボリックな存在であった大目小学校も移り変わる大きな流れの中でその歴史を閉じることになり残念でなりません。

父母や私達兄弟が通っていた当時の写真を見ると、背景には木造の旧校舎があり懐かしく思いました。

小さかった校庭は、運動会になると周囲を保護者や地域の皆さんがうめつくし、直線コースが僅かでスタートで遅れるとなかなか追い抜くことができませんでした。旧校舎のプールは6年生の時完成し、それまでは、迫川での川遊びでした。ブルーのプールは、とてもまぶしかったのを覚えています。子供達は新校舎で卒業を迎え、学校田での田植えや稲刈り等楽しくPTA活動を過ごすことが出来ました。

いつの日か、また大目小学校が、今とは違った形で、関わることを期待し終わりとします。

大目小学校への思い

第20代PTA会長 高橋 賢浩

大目小学校卒業生の一人として、旧校舎で6年間を過ごしました。当時は、1クラス同級生は18人位でした。

3年生の時にプールが出来て体育の授業が待ち遠しかったものでした。全校児童も少ない為、高学年にも面倒を見てもらい、先生にも沢山の愛情を頂きました。

それだけに閉校がとても残念でなりません。地域の交流も無くなるのではと心配です。少子化問題を考えると仕方のない事とは思いますが。統合により、友達も増え、競争心も湧き勉強の意欲も増し、集団生活から沢山の物を学んで欲しいと思います。大目小学校で培った絆を胸に抱いて成長を願います。

私も元PTA会長を2年間、先生方、保護者の皆様、地域のご協力を頂き運動会をはじめ沢山の行事をする事が出来とても、感謝しております。私にとっても素晴らしい学びでありました。

親子共々、この校舎で学び、沢山遊び思い出深い校舎ですので、建物はずっと残して頂ければと思います。ありがとう私の大目小学校。



残念!

第21代PTA会長 佐藤 仁一

大目小学校がなくなる！まだ実感がわきませんが、本当に寂しく残念でなりません。

やはり時代の流れなのでしょう。仕方のない事なのでしょう。私は旧校舎で学び、4年生の時にビニールプールが出来てとても喜んだのを覚えています。児童数も150人以上だったと思います。とてもなつかしく思われます。

新校舎が出来たのは、平成7年私の長男が1年生として入学した春でした。お陰様で三人の子供達も数えきれない程の思い出を作り無事卒業させていただきました。

PTA活動では、町のバレーボール大会において三連覇した事もとてもいい思い出です。

若柳小学校に行っても、大目っ子として勉強に運動に大いにがんばってもらいたいと思います。

大目弾正太鼓を郷土芸能に

第22代PTA会長 高橋 徳宏



私は、旧大目小学校を、昭和47年3月に卒業しました。振り返ってみますと、幼児学級からお世話になり、その後、6年間は、「忘れ物の王様」とまで仇名される位、毎日のように、宿題や教科書などの忘れ物をしましたね！（笑）

平成7年に大目小学校が、移転新築され素敵な校舎になり、私の子供たちも、入学し・学び・遊び・そして卒業しました。大目弾正太鼓も先生方の指導で、児童の皆に継承が始まり「大目地区にも郷土芸能ができて良かった」???と、思いましたが。今までは、学校の授業の一環で行われていた事です。

今後は、どのような活動を、どこで、誰が行うか、地区の皆様の思いはどうか？子供たちは？保護者は？様々な思いはありますが、せつかく出来上がってきた弾正太鼓を、皆様方のご理解と、ご協力のもと、大目小学校校舎と共に残していきたいと思えます。



さよなら、そして、ありがとう。

第23代PTA会長 菅野 雅秀

私が小学校を卒業してから、早、40数年の歳月が流れようとしています。色々な事がありすぎて、書き表す事が出来ません。長女が、4・5年生の時、新校舎の引っ越しの日には、児童、PTA会員、地区民の方々大勢で暑中、頑張った事が今でも忘れる事が出来ません。私の娘たち四人は、新校舎での勉強、運動に精いっぱい頑張っている様子が今でも思い出します。2年間、PTA会長在任中は、色々迷惑をおかけして申し訳なく思っています。在任1年から、総会には、仕事上どうしても出席出来なかった事、今でも頭の中から離れません。私が会長になった年は、教頭先生、校長先生が転入して来たばかりで、二方には、大変御苦勞をおかけしたと思っています。でも、副会長、PTA会員に助けられて、やりとげたと考えています。

最後に、大目小は、皆さんにとっても、私にとっても、思い出深い校舎です。137年間、ありがとう、そして、さようならと言いたいです。



運動会（昭和61年）

いけなかった東京

第24代PTA会長 小野寺克己

137年間にわたり大目の子供達を見守り育ててくれた大目小学校、時代の流れとともに惜しまれつつその役目を終えなければならないことに寂しさを感じます。私が過ごした昭和40年代学校は学びの場であることは当然なのですが遊びの場でもありました。みんなと遊ぶために朝早くから登校し昼休みも給食を食べ終わるとすぐに遊んだもので学校に行くのが毎日楽しみでした。

大目の子供たちはとても体格がよく当時、健康優良児校として全国表彰を受け児童会会長は東京の表彰式に出席をしました。私も東京に行きたい一心で翌年児童会の選挙に立候補して会長になったことが思い出されます。

しかし私には東京行きはありませんでした。4人の子供とともにふたたび平成6年から16年間保護者としてお世話になりました。そしてまた東京行きのチャンスが、長女が詩の全国コンクールで最優秀賞になったのです。しかしこの年から東京での表彰式はなくなりました。思い出がいっぱい詰まった大目小学校です。



収穫祭（平成17年）



夏祭り

事務 佐藤 大夢

「元気でなっつこい子どもたち、熱心な保護者、学校に協力的な地域の方々」というこの大目小学校のすばらしい環境で2年間仕事が出来たことは、忘れられないとても良い思い出になりました。

特に、大目弾正太鼓や大目夏祭りなどは、地域の方々と子どもたちが一緒になって取り組むことができるすばらしいものなので、これからもずっと続けていってもらいたいと思います。

また、子どもたちには大きな学校でいっぱい友達を作り、毎日楽しく勉強して欲しいと思います。2年間ありがとうございました。

大目小学校の子ども達へ

養護教諭 菅原 恵



大目小学校の前を通るたびに、いつも思うことがありました。それは「かわいいデザインのステキな学校だな・・・」ということです。

私は若柳地区での勤務が多く、これまで大岡小学校、有賀小学校でお世話になりました。

大目小学校へ来ることが決まった時は「あのステキな学校だ」と、とてもうれしかったです。

大目小学校の子ども達は、とても元気です。そして、自分達で考えたり話しあったりして活動できます。私の方が子ども達から教えてもらったり、気づかされたりすることも、たくさんあります。

来年度からは、若柳地区のたくさん子ども達と一緒に、勉強したり活動したりすることになりますが、大目小学校で学んだり、体験したりしたことを忘れず、元気で生活してください。いろいろな場面で、いっぱい活躍して下さい。

みんなで力を合わせて、がんばれ！ 大目っ子！

大目小学校 ありがとう

職員 鹿野由美子

私が大目小学校に赴任したのは、ちょうど6年前です。あれから6年まさか、ちょうど大目小学校の閉校にめぐりあうことになるろうとは、夢にも思いませんでした。

初めて大目小学校の校門をくぐった時、なんてかわいく、なんてきれいな学校だろうと思ったことを覚えています。そして、2階の音楽室の窓に一地域と共に一と書いてあるのが目にとびこんできました。まさにこの地域と共にながびつたりの学校でした。

大目小では、これまでに経験したことのないことがたくさんありました。複式学級、運動会での全校鼓笛パレード、音楽祭全校合唱、全校給食、大目全地区探検等・・・。毎日が楽しく、あっという間に6年が過ぎました。

地域の皆さんを含めた家族のような温かい学校で過ごした6年間は、宝物です。ここで出会えた皆様に感謝し、ここで勤務できたことをうれしく思います。ありがとうございました。





ありがとう 大目小学校

職員 若生千枝子

大目小学校でお世話になった4年間は、明るく素直で個性豊かな子供たち、そして、人情味あふれる温かい保護者や地域の皆さんに支えられ励まされた4年間でした。

大目で最初に担任したのは、1年生。入学したばかりの子供たちが、鍵盤ハーモニカで校歌を演奏しながら鼓笛パレードをやり終えた時は、驚きと感動で胸が熱くなりました。次の年は、5・6年の複式学級担任。複式指導は初めてでとても不安でしたが、賢く、団結力のある子供たちが、何でも自分たちで計画し力を合わせて取り組んでくれました。3・11の大震災があり、十分な練習ができなまま卒業式を迎えましたが、練習不足など微塵も感じさせない、すばらしい姿を見せてくれました。

3年目は、1年生で担任した七人を、再び受け持つことになりました。毎日必ず何かエピソードがあり、笑ってばかりいたように思います。そして、大目最後の年は、二度目の5・6年複式学級の担任でした。これまで受け持ったどの子供たちよりも個性的で、愉快的な子供たち。何事にもパワフルに挑戦し、陸上も水泳も予想を大きく上回るすばらしい成績を収めてくれました。そして、一番楽しかったのは、毎日の給食時間。他愛もないおしゃべりに、笑いが絶えないひと時でした。また、何かやろうとして相談すると、考えていた以上の力強いご指導やご協力をいただいた保護者や地域の方々。大目ならではの地域力だと思いました。

わずか4年の間に、私の心のノートには皆さんの思い出が沢山綴られました。そして、それらはいつまでも輝きをなくさない、私の大切な宝物となりました。本当にすばらしい大目小学校。たくさんのお会いに感謝し、改めて言いたいと思います。

「ありがとう大目小学校」
運動会鼓笛隊パレード



大目小学校閉校にあたり

業務員 花山 光喜

私は、一昨年度まで、長年にわたり、若柳小学校の業務員として勤務してまいりました。退職後1年が過ぎ、今年度1年間だけの業務員として、大目小学校に勤務させていただきました。

私の仕事は、給食のお世話と校舎内外の環境整備が中心でした。そんな私に、お子さん方が気軽に声を掛けてくれました。その明るい笑顔はとてかわいらしく、私にとって何よりの喜びでした。また、地域の方々や保護者の方々と一緒に取り組んだ運動会や夏祭りも、貴重な思い出となりました。家族のような雰囲気の中で、楽しく仕事をさせていただいたことに感謝申し上げます。

今年度で大目小学校はなくなってしまうのですが、1～5年生の皆さんは新生若柳小学校で、6年生の皆さんは若柳中学校で、勉強や運動に精一杯励んで欲しいと願っています。

一つの大きな家族のように

職員 小野寺まち子

「えっ、玄関が一つなんですか。」「そう、子ども達と一緒にですよ。」そんなちょっとした驚きから始まった大目小学校での3年間でした。

この玄関は、お客様や地域の皆様も幾度も行き来し、その度に、子ども達の伸び伸びとした成長を助け、温かく見守って下さいました。

朝、いつも職員室のドアが開いて、「先生方おはようございます。」のあいさつで始まり、帰りは、何人かの先生が玄関に出て来ては、「気をつけてね。」と見送る大目ならではの風景ともお別れだと思うと、本当に寂しくなりますね。

でも、玄関が一つの大きな家族のように、何でも全校で取り組み、一緒に育んできた思いは、今後それぞれの場所でも明るく、暖かく灯り続けることでしょう。

3年間、楽しくご一緒させていただいたことに感謝申し上げます。

この雰囲気をつつまでも

職員 熱海 宏明

大目小学校に勤務したその年に、閉校を迎えることになりました。

大目の子どもたちは、どんな時も元気でハツラツ。私もその気持ちよさや人なつっこさに、気持ちのいい毎日を過ごすことができました。大目小では、陸上や水泳練習で主に上学年の子どもたちと関わり合えたことが一番の思い出となりました。

その子どもたちは、練習で身に付けた力を十分に発揮して、上位に入賞したり、自己新記録を出したりし期待に応えてくれました。

大目夏祭りでは、保護者や地域の皆さんが企画したさまざまなイベントを、子どもたちと一緒に楽しんでという雰囲気があり、とてもアットホームだなと感じました。

1年という大変短い期間でしたが、大目ならではのほんわかしたあたたかさ、教育への熱意を感じることができてよかったです。

若柳小学校へと統合されても、この心地よい雰囲気をいつまでも大切にしてほしいと願っています。

ありがとう、大目

職員 石川 亜由美

平成24年4月、大目小学校に赴任してきました。2階の教室の窓から見える田園とその中を走る電車の景色は最高でした。子どもたちは朝から元気な挨拶をして登校し、地区によっては1年生から自転車で通学してくることに驚かされました。

この大目小学校での私の一番の思い出は、水泳、陸上大会です。大会に向けて朝練、夕練と共に苦しい思いやうれしい思いを沢山経験することができました。喜びの涙を流す子、反面失敗して悔し涙を流す子もいました。なんだかわからないけれども流れる涙、これこそが美しいものですね。喜びも悔しさも、相反するこうした両面の感動が人間性を豊かにするのだと思います。「感動こそが人を成長させる。」まさにこの感動が子どもたちを成長させてくれるのだと信じます。そして、こうしたことを支える保護者の方々、地域のみなさんの輪が広まっていることに感謝したいと思います。

大目小での沢山の思い出は、私の一生の宝物です。

わが第三の故郷・大目

職員 佐々木 洋一

大目地区民の親睦と、わが故郷大目での思い出づくりという思いで始まった大目夏祭り。

まず、家庭での不用品のバザー販売の他に、手作り品を販売しようと話し合い、子どもたちと悪戦苦闘して作製したのが竹のペン立てだ。初めて使うのこぎりやきり。手が痛くなったり真っ赤になったりすると、「大丈夫？」とやさしく声をかけ合ったり手伝ったりする子ども達。何日もかけて完成した時は、子ども達と手を取り合って喜び合った。

大人達も負けていない。「バンド演奏して夏祭りを盛り上げよう。」という、ある保護者の誘い。練習は、休日や夜を使って行う。校歌の中に最近の歌を入れ、メドレーで演奏。夏祭り当日、演奏は大成功。保護者と組んで演奏し、地区民の方々に聞いて頂いたということで、私も大目の一員になれたような感覚を覚え、とてもうれしかったのを思い出す。

私の「わが故郷」は金成だが、「わが第二の故郷」である「大目」。たくさんの思い出をありがとう。





大目小学校での1年間

職員 千葉美智子

私はこの4月に大目小学校に来ました。しかし今年で閉校ということで、一つ一つの行事が大目小学校での最後のものとなるのだと意識しながら過ごしてきました。

私の印象に残っている事は、運動会の鼓笛で全校児童が校歌を演奏したことです。下学年は上学年を手本にして精一杯頑張りました。学校が閉校しても、この校歌は子供達の心に残る大きなものとなるでしょう。

次に印象に残っている事は、学習田田植えです。冷たい田んぼの中に素足で入り、苗を手で植えました。これは今ではなかなか出来ない貴重な体験だと思います。

このような大目小学校ならではの活動を通して過ごした思い出を大切に、子供達は若柳小学校でも新たな思い出をたくさん作ってほしいと願っています。

最後に、1年間という短い期間でしたが、周りの方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。



大目小学校ありがとう

教頭 曾根原 朗

私は、平成24年4月に、亘理の逢隈小学校から転勤して来ました。朝、学校に登校してきた子どもたちは必ず職員室に顔を出し「おはようございます」と、元気よくあいさつしてくれます。児童数600名の前任校では考えられないことでした。4月の赴任当時、なんといい雰囲気为学校だなあと感心したものです。

学校再編により、そんな素晴らしい大目小学校での生活が1年限りになってしまうことは、正直残念ではありません。しかし、1年限りとは言え、大目の子どもたち、保護者の皆様、そして地域の皆様との結びつきは大変深く、思い出の多い1年間となりました。子どもたちや地域の人々が一緒に楽しんだ運動会、暑い暑い8月の大目夏祭りなど、大目小学校でなければなかなか体験できないことをいっぱい体験した1年間でした。

栗原市立大目小学校は、なくなってしまいますが、大目地区の人々が大切にしてきた「大目学校」は、是非今後も残し、大目の子どもたちを地域ぐるみで育て続けて欲しいものだとお祈りしています。また、いつか大目の皆さんとお会いする機会を楽しみにしています。



夏祭り



えんつこもんつっこさけだ

元職員 伊藤 玲子

大目小学校勤務を最後に退職して30年、今私の生きがいになっているのは、大目小で生まれた民話です。

昭和52年「宮城のむかし話」発刊のとき、大目小の私は採話者としての依頼を受けました。「どこからどのように・・・。」と迷っている私を大目地区の方々が声をかけてくれ、素晴らしい語り手に出会うことが出来ました。明治生まれの下大目のきりよさん、そしてきよのさん、新田のちさとさん、ちえ子さん。とてもいい語りを聞かせてくれました。

「あわれさ、おかしさ」などに触れるにつれ、昔話の魅力にのめりこんでいきました。そして平成9年、新田の佐藤清人さん達と「若柳民話わらべ歌の会。」を発足、以来「ふるさと劇場」での一般公開。大目小をはじめ、各学校、老人会、地区集会等で民話の仲間と、その伝承につとめています。

栗原地方ではきまって「えんつこもんつっこさけだ」と昔話の終わりを結びます。「これで一期（いちご）栄えた」の訛とか。いい言葉ですね。

「えんつこもんつっこさけだ！」

大目は第2の故郷

元職員 加賀谷宏次

私が大目にお世話になったのは、昭和39年度～昭和46年度までの8年間です。その間に、結婚・娘誕生と私にとっては、人生のスタートつまり大目は「第2の故郷」なのです。校長3人、教頭4人に仕えた。

思い出と云えば、いっぱいありますが、郡陸上競技大会で男子が優勝女子が準優勝したことです。当時の教え子達は、東北電力社員や教師となり間もなく退職とか。

二つ目の思い出と云えば、図工の指定校となり、体育館にベニヤ板に描いた「未来の若柳」を飾ったことです。東北本線沿いに建っていた校舎は今も無く、なつかしさでいっぱいです。それに今は栗原市です。時代の変遷を感じざるを得ません。

三つ目の思い出と云えば、宿直翌日の授業参観日のことです。ちょうど参観日の最中に娘誕生の報せが教室に届きました。その時保護者の皆さんは、一斉に「先生！家さ帰って初めての赤ちゃんと対面さえん。」

あの言葉は今も忘れられない。



授業参観

じんわりとくる5年間

元職員 吉田よし子

大目小学校には、今から50年前（昭和38年）に赴任し、5年間の勤務でした。1学年30人前後の理想的な規模で“大目学習院”と称して、自慢していました。

野球大会で優勝し、リレー大会で優勝するなど、スポーツは一致団結して勝ち、満面の笑顔で帰校する子ども達は誇らしげでした。低学年は高学年の姿を憧れの目で見てました。

授業研究が盛んで、算数、図工の研究指定校になり、学校一丸となって取り組みました。

ことに図工は県指定でした。子ども達は描画の技法の基礎・基本を身につけると、驚くほど上達しました。子どもらしい視点で対象をとらえ、線の動き、色の組み合わせを自分なりに工夫し描き、素晴らしい絵を描きました。子どもの力に感動したものでした。

私の事ながら、在任中に父を亡くし、長女が生まれ、長男が生まれ、母を亡くしました。人生の最大の悲しみと喜びを味わいました。公私とも今でもじんわりとくる5年間です。

思い出すままに

元職員 三浦 和子

昭和51年から8年間お世話になり教職最後としての私には思い出多い大目小学校です。地域上げてのすばらしい大運動会、風の日の教室に入る砂、すずかけの木下での勉強や給食、子ども達の生き生きとした兔の飼育、県指定の「う歯予防研究会。」お母さん達の歯に良いおやつ作り、食事のあり方等の実践発表のすばらしさ。歌に合わせての歯みがき体操、いつも家庭と学校が一丸となつての研究会、本当に毎日が楽しい学校でした。

素直で元気の良い子ども達の笑顔が甦って来ます。教え子達も立派な親となりわが子の教育を話している事を聞き嬉しく思います。旧校舎から新校舎に移転したばかりなのに歴史ある学校が閉校とは一抹の淋しさを感じます。いつも耳に残る校歌「大目のためや 国のため。」これを忘れないで活躍される事を願い、たくさんの思い出を作ってくださった大目の皆さんに感謝を申し上げます。

「すずかけの葉の茂りたる木の下に わが生徒らとハーモニカ吹く」



歯みがき体操

地域の皆様に支えられた4年間

元職員 氏家 伸之

春 桜の下での給食。色あせた遊具に子供たちと色を塗ったり、ゴミ箱を作って迎えた運動会。

夏 午前中は水泳と野球。玉のような汗を垂らし猛練習。人員不足で6年生全員が選手。本番で子供に恥をかかせないために。夏の教室は、寺子屋に。机を全部出してゴザを敷き正座での授業。疲れるとごろり。

秋 天気のいい日は、午後からいなごとり。今はなき阿部商店でイナゴを売り、そのお金でアイスを買って食べながら帰校。そうそう、陸上の練習も。

冬 雪が降ると朝からかまくら作り。全校児童が入れるかまくらをと一日かけての制作。土手に行つてのミニスキー。雪の中のサッカー。教室に入るとポップコーンを作って温まる。正月明けは餅や海苔を持ち寄つての餅パーティー。



子供たちが中三になると、学校の職員室や集会所で高校入試のための週二回の即席学習塾。とにかくやりたい放題の4年間でした。問題教師。

地域の皆様に心から感謝致します。

あれこれと

元職員 諸橋 珠恵

退職前の4年間を勤務した大目小学校、木造校舎の木の温もりと共にたくさんの「思い出」が懐かしく、蘇って来ます。

風の強い日は教室に砂ぼこりが舞い込み、雪の日は窓の隙間から雪が吹き込むことも、又、夏には教室の壁の隅に蛇が入り込んで来たりと、今更のように思い出されます。

学校行事でも、大目小独自のものが多く、地区民総参加の大運動会や畑岡小、大立小との三校合同の会津方面への修学旅行、う歯予防のカルタ取り大会、凍りついた田んぼで鼻水をすすり乍らやった全校凧揚げ、雪の積った迫川土手に、段ボールや肥料袋を持って行って、下まで滑り雪まみれになったり、一人で何役も出演する学芸会等々、数えきれない程の場面が鮮明に浮かびます。

地区の方々の暖かいご支援を頂き素直で元気一杯の子供達と過ごした大目小の閉校、時の流れて、仕方のない事でしょうが残念です。

たくさんの「思い出」は、いつまでも心の中に残してー

大目小学校での思い出

元職員 松田 良幸

平成16年から4年間、大目小学校にお世話になりました。今思うと、本当に充実した、楽しい毎日でした。

一年目、5・6年担任。初めて経験する複式学級でした。町民運動会で、他の4校をおさえ、女子チームが見事一位になりました。

二年目、新任以来2年ぶりの2年生担任。めんこい6名と、ほとんど毎日、給食時間に「しりとりに」をしていました。

三年目、二度目の5・6年担任。この年に入院をしてしまい、子供たちに迷惑をかけてしまいました。でも、優しい子供たちが作ってくれた千羽鶴は今でも大事にとっています。お陰で、早くよくなりました。

四年目、三度目の5・6年担任。8人と行った会津への修学旅行は、まるで家族旅行のようでした。

全校児童約30人。みんなが兄弟のように助け合い、協力し合っていました。PTAや地域の方々には、いろいろな場面で本当に支えていただきました。学校はなくなりますが、思い出が消えることはありません。

学校と地区が共生

元職員 瀬戸 のり子

私の思い出は、古い校舎での8年間でした。最後の1年は新校舎への荷物運びと決めて勤めました。

大目小は地区の学校で、学校から文化が流れ、地区から学校へさまざまなニュースが入ってきます。

学校と地区が共生し、一体化している感じです。そのなかで子供たちは生き生きと生活していました。勉強も運動も本気になって、頑張る逞しさは最高でした。

運動会は地区の方々も参加し、小さな校庭ですが、観客でいっぱいでした。一人一人が燃えていましたね。あのような運動会やいろいろな行事は二度と経験できない素晴らしい思い出です。

また、大目小を閉校させない様にPTAの方々が一丸となって頑張る姿が私達にまで伝わり、教師に一層の刺激になり力を頂きました。

子供たちにさまざまな可能性を發揮させる大目小は、よき環境の学校でした。人の心を浄化させるというか、心を耕す大きな力を持った環境でした。閉校となると感無量です。



学芸会（平成15年）

感謝をこめて

元職員 二階 雅之

御校には、平成13年度から、8年間お世話になりました。児童のみなさんは、少ない人数の中でも、いつもみんなで力を合わせて、陸上や水泳などの対外行事や校内の行事、大目弾正太鼓の活動などにがんばっていたのを覚えています。

また、保護者の方々の中に、中学時代の同級生や先輩、後輩のみなさんがいて、中学時代を振り返りながら、多くの活動ができたことも心に残る思い出です。私は学芸会や学習発表会で、脚本を使っていたり、背景画を描かせていただいたりしたことが、とてもありがたい思い出です。劇の登場人物たちはみなさんのおかげで、本の中から飛び出すことができました。たくさんの登場人物たちは、劇が終わると同時に、みなさんに心から「ありがとう」と言って本の中に帰っていったことでしょう。

在任中お世話になりました校長先生はじめ、先生方、児童、保護者、地域の皆様、本当にありがとうございました。



大目小学校閉校によせて

卒業生 菅原 章夫

市の学校再編により、我母校でもあり、地域の拠り所でもある大目小学校が閉校を迎え、137年の歴史を閉じようとしている。なんともやりきれない思いであります。時代の趨勢とはいえ、いざ、閉校が現実的なものになると寂しさが胸に込み上げてきます。

大目小学校は、学校・保護者・地域が一体となって教育に取り組んできた学校であります。思い起こせば、私達が入学した昭和24年は、団塊の世代の少し前で戦後の食糧難の時代でした。入学した1年生の姿は、手縫いの洋服、竹の皮の草履、布製のランドセルでした。また、秋になると学校行事で落ち穂拾いやイナゴ取り等をして教材を買う費用に充てていました。

震災後、「絆」「助け合い」という言葉がよく聞かれますが、あの時代の学校という集団生活の中で、すでにそういう精神が培われていたと思います。

大目小学校の為に、日々頑張って来られた先生方・PTA・関係者の皆様方に改めて敬意と感謝を申し上げます。



校庭回旋塔（昭和54年）



校庭（昭和54年）

大目小一年生の頃

卒業生 菅原 勇喜

昭和33年当時の大目地域の農作業は、牛馬に耕耘、手作業がほとんどなので子どもたちも貴重な働き手、5月には田植え休みが一週間あり、苗運びなどの手伝いです。遠足は歩いて新山公園へ。夏休みになると、落堀川で毎日水泳ぎ。秋にはハッタギ取り（イナゴ）。1・2年生は1kg。小さな子どもの手での1kgのノルマは本当にたいへんでした。最近、ある市の地場産品売場でハッタギのつくだ煮をみつけたので、口にしたら、あの、何度石けんで手を洗ってもとれない強烈なおいが口いっぱいになり、一気にその当時を思い出しました。冬には母たちの手による味噌汁給食です。自給自足のくらしのなかでも、家族の、地域の人たちの、子どもたちがスクスクとまっとうに育てほしいという思いが子どもたちにストレートに伝わる時代であり、今、ふりかえってみても、そうした思いのなかで育てられた大目小6年間の生活は本当にかけがえのないものだったなあと思っているところです。



ありがとうのメッセージ

1年生～大目小・ありがとう

大目しきうがこころが
なくなるとから
さみしいから

しきうがこころが
なくなるとから
さみしいから

おもしろいのが
たくさんあるから
さみしいから

あんなに
おもしろい
ところはない

おもしろい
ところはない
から

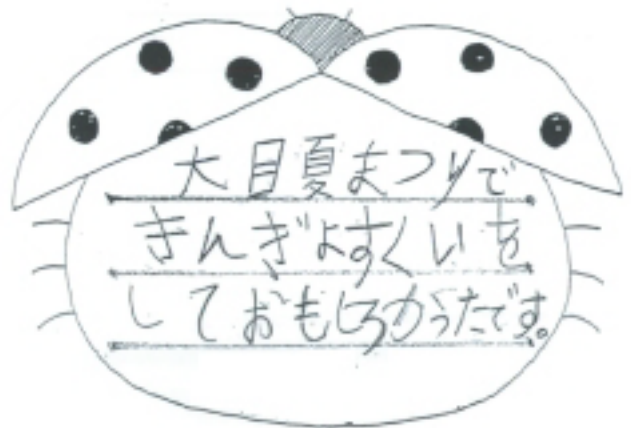
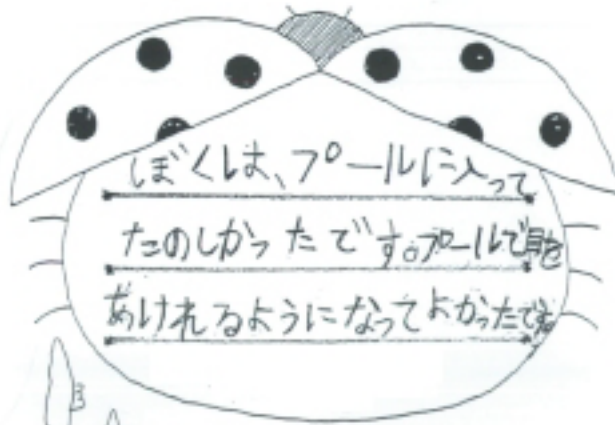
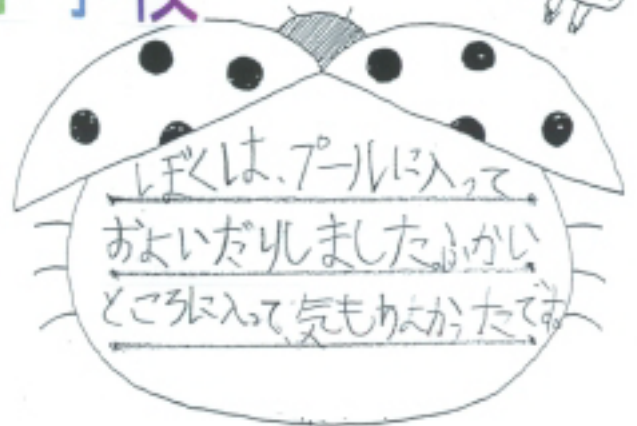
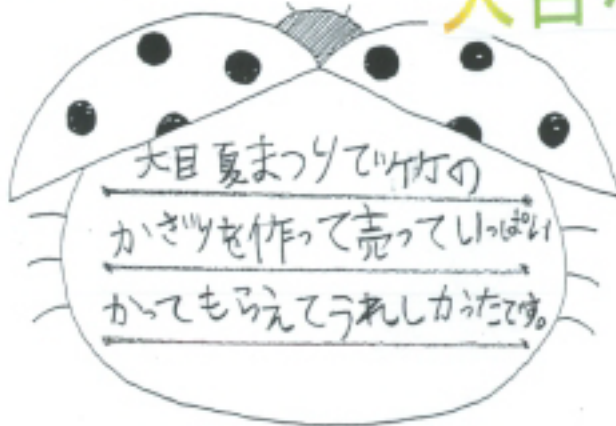




ありがとうのメッセージ

2年生

ありがとう 大目小学校



ありがとうのメッセージ

ありがとう 大目小学校



3年生

大目夏まつりで毎年
花火をおげで楽し
しかたです。金魚
すくいも楽しかったです。

運動会で毎年3位
だったけど今年2位
になってよかったです。
いう楽しかったです。

遠足でいろいろな
魚を見て楽し
かったです。電気うなぎの
電気でしびれては
かったです。

サマースクールに行き
ペンキで作るきまぐら
できてキースミたい
でおもしろかったです。

大目夏まつりでわた
がしがおもしろい
です。大目小が
あつても、大目夏まつり
たいです。

大目たんじょうだい
みんなでいっしょに
楽しんでかっこよ
かったです。





ありがとうのメッセージ

ほんわかあったか! 大目小



がきぞめで3年
れんぞくだいひょう
になった。

4年

一生の思い出
しゅうじて部会長賞!!
陸上の県大会で5位!
陸上の市の大会で2位!



1年生のころ
校長室で遊べた。

三年生の時、大目祭り
でなカレソウメンもおい
しかったし、夜にした
花火もとても楽しかった
です。



3年生のときの夏祭り
こじ流しそめんが最
高、あじけんが最
高の楽しかった。

ほくは2年生の時、大目夏祭り
を始めてやりました。流し
そめんをやったり、ビッグ大会
をやったりしました。とても楽しかった
です。



3年のときの大目夏
祭り、ビンゴで、
かき氷器をもらい
ました。うれしかったです。



ありがとうのメッセージ

5年生

ありがとう 大目小学校

朝にまたたてわりリレーで3位だったけど一生懸命がんばったので楽しかった。

この一年間で大目小ならではの行事、田植え、自然とふれあい、地域のみなさんと協力してやりました。楽しかったよ。

校長室で遊んだことが楽しかったです。

友達もいてとっても楽しかった。

校長室でちぎきゆうをじたり本を読んだりして楽しかった。

花山学習で沢遊いが楽しかったです。





ありがとうのメッセージ

6年生

思い出いっぱい 大目小学校

大目夏祭りでフリーマーケットの
値段づけが楽しかった。
地区の人達がたくさん来て水
とても思い出に残った。

友達「ラララー」
がとてもおもしろ
かった。

もりおかのしゅうが
くりのこうとほみやま
がっしゅうがた
のしかったです。
1はんめのブラスコカ
たいすきでした。

たてわりリレーの新き
ろくをだしたと
てもうれしかったです。







編集後記

栗原市立大目小学校
閉校記念誌編集部会 部長 高橋 清美

137年の歴史と伝統の宝物、どれだけまとめられただろうか。私たちが後世に伝える宝物になっただろうかと今振り返る。閉校の期を迎え失うものから記憶という宝物になって大目小学校を愛してくれた多くの先生方や先輩方、地域の皆様方の心の中に生き続けてほしいと願う。投稿頂いた皆様に深謝申し上げ編集後記とさせていただきます。ありがとうございました。

閉校記念誌編集部会

部長：高橋 清美

副部長：千田 直紀（PTA副会長）

庶務：鹿野由美子 石川亜由美

部会員：菅原 徳秀 菅原 徹 加藤 健一

佐藤 和哉 佐々木 新 小野寺晃浩

小野寺まち子 菅原 恵 千葉美智子



栗原市立大目小学校閉校記念誌

発刊 平成25年3月

発行 栗原市教育委員会

企画・編集 栗原市立大目小学校閉校記念誌編集部会

栗原市立大目小学校



